

研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2008～2010
課題番号：20520278
研究課題名 (和文) 19、20 世紀のフランスにおける——文学と絵画の関係についての総合的研究

研究課題名 (英文) Interdisciplinary research on the relationship between literature and painting in France (19th-20th centuries)

研究代表者

マリアンヌ・シモン＝及川 (MARIANNE SIMON-OIKAWA)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：70447457

研究成果の概要 (和文)：

『イーリアス』第 18 歌でアキレスの盾を描写したホメロス以来、芸術作品、特に絵画をめぐる文章を著してきた文学者は枚挙にいとまがない。西欧文学では、絵画の描写はひとつの伝統として捉えられてきた。フランスにおいて文学者の絵画に対する関心がとりわけ顕著になるのは 19 世紀であり、絵画をめぐるテキストの質も多様化するが、本研究は、19-20 世紀のさまざまジャンルのテキストを選択し、絵の様相と意味とを多角的に考察しながら、これまであまり研究の対象になっていなかった作品について検討し、文学と絵画の関係という分野において新しい成果を出した。

研究成果の概要 (英文)：

Since the description of Achilles' shield by Homer in the 18th book of the *Iliad*, works of art and more especially paintings have become a frequent subject in literature. In the West, the description of paintings has become a traditional literary motif. In France, the interest of writers for painting has become prominent during the 19th century, and led to the production of more diversified texts. This research is based on texts of the 19th and 20th centuries belonging to various genres, and concentrates on works that have rarely been discussed. It studies the forms and meanings of the images in literary texts of the period from different points of view, and was able to bring out new results concerning the relationship between literature and painting at large.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,320,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：(1) 文学 (2) 絵画 (3) 描写 (4) 芸術家小説 (5) 表象

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は 20 世紀の詩人ジャン・タルデュエの作品にはじまり、文学、絵画にこだわらずに、広告、落書きまでも対象とするテキストとイメージの関係、さらには 1999 年に提出した博士論文における日本の視覚詩へと、研究を展開させてきた。2000 年から 2002 年にかけては、日本の研究者と共に日仏会館で「テキストとイメージ・セミナー」を開き、絵画についてのテキスト、絵解き、挿絵などのテーマで共同研究の場を作ってきた。そこで、自分の研究の出発点となったテーマへと立ち返りつつ、これまでの研究の成果を十全に活用するとともに、分担者、連携研究者の協力を得ながら、新たな視点から考察を深化・発展させていこうと考えた。特に、これまで研究の対象にあまり及ばなかった作品を中心に検討することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、様々なジャンルのテキストをコーパスとしながら、19、20 世紀のフランス文学における広義の絵画（版画、デッサンなども含まれる）の描写の様相と意味とを多角的に考察することである。表象の定義、解釈の可能性、文学と現実の関係や、文学と芸術の関係といった、文学と絵画の関係についての根本的な問題と密接に結びついた本研究は、文学研究のみならず表象芸術研究においても、新しい視座を得られると考えた。

具体的に焦点を当てたのは以下の点である。

1. テキストに描かれた画家、作品自体は実際に存在するのか、空想の作り物なのか。その場合、そのモデルとなった画家、作品は確認できるのか。どのような形で、そしてなぜこの画家、作品が選ばれたのか。

2. テキスト中で絵画が描写される場所とその特徴

絵の描写はテキストの一つの箇所集中しているのか、それとも幾つかの箇所に分散しているのか。どこから始まり、どこまで続くのか。絵の中のモチーフはすべてテキストの中にも確認できるのか。忘れられたものがあるのか。変更されたものがあるのか。テキストの中でそのモチーフはいかなる順序で置かれているのか。テキストの中でどの時制が使われるのか（過去、未来は作者の視点をあらわしているなど）。

3. 描写の役割

絵の描写はどのような役割を果たしているのか。物語の流れとは無関係なのか。それとも読者に物語の流れについての様々なヒントを与えるものなのか。そうであればどのようなヒントなのか。

4. 文学者と画家の関係

絵画に興味を示す多くの文学者は画家に対する強い競争心を持っているのではないか。絵を語ることは、色彩の代わりに言葉を用いて絵を描くことに他ならず、その根底には画家を追い越そうとする文学者の野心を認めることができる。絵を描写しないテキストの中でも、“croquis”（下絵）、又は“dessin”（デッサン）などの絵画から借用したタイトルの作品が存在する。作者が絵画芸術から借用する技法、その用法と意味についても考察する必要があったと考えた。

3. 研究の方法

以下の方法で、研究のテーマを扱う。

- (1) まず、基礎作業として、文学と絵画の関係をめぐる基本的な資料体をリストアップした。その中に欠けている文献があれば、フランス及び欧米で刊行されたモノグラフィーや論文集を購入し、古い文献の場合はリプリント版、マイクロフィルム版を含め補充するとともに、19 世紀、20 世紀絵画に関する美術書も可能な限り幅広く入手した。
- (2) 基礎資料の収集と平行して、文学と絵画の関係という視点からあまり研究されてこなかった作品、いまだ研究の対象とはなっていない作品を確定したうえで、研究代表者、研究分担者、連携研究者の専門に応じて、それぞれの作品を分析した。特に、次の点について議論を交わした。
 1. テキストに描かれた画家、作家の同定、
 2. テキスト中で絵画が描写される場所とその特徴、
 3. 描写の役割、
 4. 文学者と画家の関係（「研究の目的」に述べたガイドライン参照）。
- (3) 講演会やシンポジウムを主催し、研究分野の壁を越えた交流を活発に行なった。特に、フランス側は、パリ第 7 大学の Centre d'étude de l'écriture et de l'image（文字とイメージの研究センター）の研究者、国内では東京大学、早稲田大学の研究者

の協力を得、韓国の中央大学との学問交流を始めた。

4. 研究成果

大別して次の三点に要約される。

- (1) まず、絵画を語るテキストの分析に関しては、テキスト中の絵の描写を考察する時には、その内容を考えるだけでなく、その描写が与えられた場所や範囲に深い意味が含まれていることが明らかになった。つまり、文脈や文章の中に占める位置を考える必要があるということが明確に分かった。
- (2) 絵の描写は、作家の全体の活動の中でも考えるべきであることが明らかになった。実際に絵を画くことを経験した作者とそうでない作者は、異なる視点を持ち、絵画の見方に大きく関係している。この意味で、画家でもあり作家でもある作者の立場は大変興味深いである。
- (3) 散文だけでなく、詩の中でも絵画を課題にする作品は多く、絵について語ることから文字自体が持つ独特な視覚性を生かし、視覚詩につながる作品が少なくない。これらの作品群はこれからの研究に欠かせない分野である。

以上の成果の一部は本研究の題目と同タイトルの冊子としてまとめられ、主要大学の図書館に配布された。また、本研究に参加した研究者の他に数名の協力を得、2011年の秋に水声社から『絵を書く』（仮題）という題の論文集として単行本の形で出版する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 32 件)

- (1) マリアンヌ・シモン＝及川、「『日本の文字文化を探る』の出版に当たって」、『勉誠通信』、18号、2010年2月16日、p. 13-15. (査読有)
- (2) Marianne Simon-Oikawa, « Les arbres aux feuilles d'or », *Le Frisson esthétique*, n° 8, automne-hiver 2009-2010, p. 52-55. (査読有)
- (3) Marianne Simon-Oikawa, « La coquille aux mirages », *Le Frisson esthétique*, n° 7, printemps-été 2009, p. 32-33. (査読有)
- (4) マリアンヌ・シモン＝及川、「江戸時代のいたづらがき—文字絵を中心に」、『アジア遊学』、109号 (絵を読む、文字を見る、日本文学とその媒体)、2008年4月、勉誠出版、p. 125-135. (査読有)
- (5) Marianne Simon-Oikawa, « Le temps codé : les calendriers en images (*egoyomi*) au Japon », *Extrême-Orient Extrême-Occident*, n° 30 (*Du bon usage des images : autour des codes visuels en Chine et au Japon*, sous la direction de Claire-Akiko Brisset), 2008, p. 117-142. (査読有)
- (6) Marianne Simon-Oikawa, « La poésie idéographique de Pierre Albert-Birot », *RiLune*, n° 8, (« La réception des idéogrammes dans la poésie européenne du début du XX^e siècle », Enrico Monti dir.), 2008, p. 145-164, http://www.rilune.org/ENGLISH/mono8/13_Simon-Oikawa.pdf. (査読有)
- (7) 中地義和、「フィクションという探求—ル・クレジオとの対話」、『すばる』2010年8月号、p. 174-190. (査読有)
- (8) Yoshikazu NAKAJI, « Les "voix instructives" dans les poèmes de 1872 », *Europe*, « Rimbaud », n° 966, 2009, p. 130-138. (査読有)
- (9) Yoshikazu NAKAJI, « Le "tombeau" dans *Les Fleurs du Mal* », *Baudelaire et les formes poétique* », *La Licorne*, n° 83, 2008, p. 25-40. (査読有)
- (10) Yoshikazu NAKAJI, « Sur la "fatalité du bonheur" », *Parade sauvage*, 2008, numéro spécial « Hommage à S. Murphy », p. 586-595. (査読有)
- (11) 鈴木雅生、「ル・クレジオ『地上の見知らぬもの』について」、『研究ファイル』、第37号、共立女子大学、2009年12月、p. 8-14. (査読有)
- (12) Masao SUZUKI, « De la claustromanie au nomadisme : l'origine du goût de l'ailleurs chez Le Clézio », *Europe*, n° 957-958, janvier-février 2009, p. 69-81. (査読有)
- (13) 畑浩一郎、「自分を語る旅行者 シャトーブリアン『パリからエルサレムへの旅程』」、『仏語仏文学研究』、2010年、第39号、p. 25-44. (査読有)
- (14) 畑浩一郎、「ゼトネビーとゼイナブ—女主人公の名前をめぐる—」、『ネルヴァル手帖』2008年第5号、p. 123-143. (査読無)
- (15) Masanori TSUKAMOTO, « Qu'est-ce que le dehors ? — une lecture du "Retour de Hollande" de Paul Valéry, 『旅行記と文学創造—フランス文学の場合』平成19年度～平成21年度科学研究費補助金 (基盤研究B) 研究成果報告書、研究課題番号19320046、研究代表者、中地義和、p. 59-70. (査読有)
- (16) 塚本昌則、「「無意識」と「錯綜体」—フランス作家たちの「抵抗」、『フロイト全集』月報第13号、2009年、p. 11-15. (査読無)
- (17) 塚本昌則、「二十世紀フランス文学と死」、『死生学研究』、2009年第11号、p. 111-146. (査読無)

- (18) Masanori TSUKAMOTO, « La modernité et la simulation chez Valéry — les puissances de l'inachèvement », *Paul Valéry : « Regards » sur l'histoire*, 2008, n° 1, p. 327-334. (査読有)
- (19) Masanori TSUKAMOTO, « *Les Paradis artificiels* et *Monsieur Teste* : la théâtralisation de la conscience », *La Licorne*, n° 83, 2008, p.193-203. (査読有)
- (20) Kan NOZAKI, « *Le Voyage en Orient* de Gérard de Nerval ou l'aspect "sentimental" du récit » 『旅行記と文学創造—フランス文学の場合』平成19年度～平成21年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書、研究課題番号19320046、研究代表者、中地義和、p. 27-37. (査読)
- (21) 野崎 歆, 「海外文学最前線・フランス語圏 新しい小説は、現実にかける」、『群像』2009年、第64巻第5号、p. 331-340. (査読有)
- (22) 野崎 歆, 「異邦の香り——ネルヴァル『東方紀行』論 第4章 女神の島」『群像』2009年3月号、p. 226-241. (査読有)
- (23) 野崎 歆, 「異邦の香り——ネルヴァル『東方紀行』論 第3章 女の都」『群像』2009年2月号、p. 284-299. (査読有)
- (24) 野崎 歆, 「異邦の香り——ネルヴァル『東方紀行』論 第2章 旅人が名前をなくすとき」『群像』2009年1月号、p. 166-179. (査読有)
- (25) 野崎 歆, 「剥き出しの生 ウェルベック以降のフランス文学」、『ユリイカ』2008年3月号、p. 60-67. (査読有)
- (26) 野崎 歆, 「異邦の香り——ネルヴァル『東方紀行』論 第1章 遊歩への招待」『群像』2008年12月号、p. 82-96. (査読有)
- (27) 野崎 歆, 「吉田喜重の出発——『甘い夜の果て』まで」、『群像』2008年11月号、p. 275-282. (査読有)
- (28) 野崎 歆, 「『レオ・ビュルカール』を読みながら」、『ネルヴァル手帖』2008年第5号、p. 85-90. (査読無)
- (29) Tetsuya SHIOKAWA, « Les études dix-septiémistes françaises au Japon : essai de mise en perspective », *XVII^e siècle*, juillet 2010, n° 248, p. 389-402. (査読有)
- (30) Tetsuya SHIOKAWA, « La pensée selon Pascal », *Chroniques de Port-Royal*, n° 58, 2008, p. 399-414. (査読有)
- (31) Tetsuya SHIOKAWA, « La campagne de la 18^e Provinciale », *Chroniques de Port-Royal*, n° 58, 2008, p. 59-71. (査読有)
- (32) Tetsuya SHIOKAWA, « Le temps et l'éternité selon Pascal », *XVII^e siècle*, n° 239, 60^e année, n° 2, 2008, p. 273-283. (査読有)
- (1) Marianne Simon Oikawa, « La poésie visuelle en France et au Japon : échanges et créations », communication à l'Université Yonsei, Institut des Humanités, Séoul, 2010年8月21日.
- (2) Marianne Simon Oikawa, « De la traduction à la poésie supranationale : les poèmes polyglottes de Pierre Garnier et Niikuni Seiichi », communication au colloque de la Société internationale de littérature comparée, session « Translation and Multilingual Literature », Université Chung-Ang, Séoul, 2010年8月16日.
- (3) Marianne Simon Oikawa, « Voir la poésie, La poésie visuelle en France et au Japon », Bibliothèque municipale de Saint Aubin (Calvados), 2009年8月6日.
- (4) マリアンヌ・シモン＝及川, 「日仏詩：ピエール・ガルニエと新国誠—を中心に」、学生フォーラム、日仏会館、2009年6月26日.
- (5) Yoshikazu NAKAJI, « Les lignes de force de "Nuit de l'enfer" », シンポジウム « Rimbaud. Des Poésies à la Saison », 2009年12月12日, フランス・パリ第4大学.
- (6) Yoshikazu NAKAJI, « L'avenir de la culture française au Japon », 日本フランス語フランス文学会でのワークショップ、2009年5月24日、中央大学.
- (7) 中地義和, 「ル・クレジオ、フランスからの出発」、東京外国語大学「多分野研究交流」2008年12月11日、東京外国語大学.
- (8) 中地義和, 「現代性とメランコリー——変容するパリのボードレール」、ブリヂストン美術館土曜講座、「パリと近代芸術家たち」第2回、2008年11月1日、ブリヂストン美術館.
- (9) Yoshikazu NAKAJI, « Voyage à Rodrigues ou la double quête de Le Clézio », コロク « Du récit du voyage à l'œuvre littéraire » 「旅行記から文学作品へ」、2008年10月16日、東京大学文学部.
- (10) Yoshikazu NAKAJI, « Voix des ancêtres, voix de soi : le "cycle mauricien" des romans de Le Clézio », ピエール・ブリュネル教授退官記念シンポジウム「声」、2008年6月7日、フランス・パリ第4大学.
- (11) 鈴木雅生, 「ル・クレジオの変容と越境」、日仏学生フォーラム、日仏会館、2009年10月10日.
- (12) 畑浩一郎, 「近東を旅するフランス人——19世紀のオリエンタ旅行記から」、ブリヂストン美術館土曜講座、地中海学会秋期連続講演会「異文化交流の地中海」、ブリヂストン美術館、2010年9月25日.

- (13) 畑浩一郎, 「オリエントを旅するフランス人——19世紀の旅行記から」、地中海学講座、「イスラームとヨーロッパの出会い」朝日カルチャーセンター、2010年9月11日。
- (14) Koichiro HATA, « Vingt ans de remaniements. Jean Potocki, *Manuscrit trouvé à Saragosse* », 国際シンポジウム« Balzac et alii, génétiques croisées, Histoires d'éditions », 2010年6月4日、パリ第8大学。
- (15) 畑浩一郎, 「他者との邂逅 —— フランス・ロマン主義時代のオリエント旅行記をめぐって ——」、地中海学会定例研究会、東京大学本郷キャンパス、2008年12月13日。
- (16) 塚本昌則, 「クレオールの幼年時代 —— パトリック・シャモワゾー『最期の身ぶり——カリブ海偽典』をめぐって」、日本フランス語フランス文学会2009年度秋季大会、ワークショップ「クレオール再考」、2009年11月8日、熊本大学。
- (17) Masanori TSUKAMOTO, « Qu'est-ce que le dehors ? — une lecture du “retour de Hollande” de Valéry », コロック« Du récit du voyage à l'œuvre littéraire »「旅行記から文学作品へ」、2008年10月16日、東京大学文学部。
- (18) 塚本昌則, 「フランス文学と〈私〉——ポール・ヴァレリーをめぐって」、PESETO 人文学術会議、2008年3月28日、韓国・ソウル大学。
- (19) Kan NOZAKI, « Traduire Stendhal aujourd'hui : *Le Rouge et le Noir* dans le contexte japonais », 国際高等研究所研究プロジェクト「受容から創造へ」、2009年5月29日、京都・国際高等研究所。
- (20) 野崎 敏, 「ネルヴァルとジュネ —— 『東方紀行』の現代性」、日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ「ネルヴァルの現代性を探る」、2008年11月9日、岩手大学。
- (21) Kan NOZAKI, « Le Voyage en Orient de Nerval ou l'aspect “sentimental” du récit », コロック« Du récit du voyage à l'œuvre littéraire »「旅行記から文学作品へ」、2008年10月16日、東京大学文学部。
- (22) Tetsuya SHIOKAWA, « La religion, le commerce et la politique internationale dans le *Journal d'un voyage fait aux Indes orientales* », ダルフージュ大学 (カナダ、ハリファックス)、パリ＝ソルボンヌ大学17・18世紀フランス文学研究センター共催国際シンポジウム、2009年9月。

[図書] (計 18 件)

- (1) マリアンヌ・シモン＝及川 (共編) (4)、『日本の文字文化を探る——日仏の視点

- から』勉誠出版、2010年。
- (2) マリアンヌ・シモン＝及川, 『日本の文字文化を探る——日仏の視点から』、勉誠出版、2010年、p. 329-352。
- (3) Marianne SIMON-OIKAWA, *Traversée, Hommage à Montserrat Prudon*, Calliopées, 2009, p. 221-230。
- (4) Marianne Simon-Oikawa (avec Annie Renonciat, dir.), *La Pédagogie par l'image en France et au Japon*, Presses universitaires de Rennes, 2009。
- (5) Marianne Simon-Oikawa (avec Annie Renonciat, dir.), *La Pédagogie par l'image en France et au Japon*, 2009, p. 39-53。
- (6) Yoshikazu NAKAJI, *Rimbaud. Des Poésies à la Saison* (共著), Classiques Garnier, 2009, p. 245-263。
- (7) Yoshikazu NAKAJI, *Rimbaud, l'invisible et l'inouï. Poésies, Une saison en enfer (1869-1873)* (共著), Presses Universitaires de France, 2009, p. 120-140。
- (8) Yoshikazu NAKAJI, *Le Vers libre dans tous ses états. Histoire et poétique d'une forme (1886-1914)* (共著), L'Harmattan, 2009, p. 33-45。
- (9) Yoshikazu NAKAJI, *La Voix. Hommage à Pierre Brunel* (共著), PUPS, 2009, p. 283-294。
- (10) Yoshikazu NAKAJI, *Baudelaire et les formes poétiques* (編著), Presses Universitaires de Rennes, 2008, 208 p。
- (11) 鈴木雅生, ル・クレジオ『地上の見知らぬ少年』、河出書房新社、2010年、p. 349-356。
- (12) Koichiro HATA, *Voyageurs romantiques en Orient — étude sur la perception de l'autre*, L'Harmattan, 2008, 410 p。
- (13) 塚本昌則, 『〈前衛〉とは何か? 〈後衛〉とは何か? ——文学史の虚構と近代性の時間』(共編)、平凡社、2010、592 p。
- (14) 野崎 敏, 『異邦の香り —— ネルヴァル『東方紀行』論』、講談社、2010、437 p。
- (15) 野崎 敏, 『こどもたちは知っている 永遠の少年少女のための文学案内』、春秋社、2009、195 p。
- (16) 野崎 敏, 『文学・芸術は何のためにあるのか?』、東信堂、2009、p. 5-14。
- (17) 塩川 徹也, 『発見術としての学問』岩波書店、2010年7月、190 p。
- (18) 塩川 徹也, 『哲学の歴史5』「デカルト革命」中央公論新社、[V「アルノー」 p. 275-297 ; VII「パスカル」 p. 337-374]

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/futsubun/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

マリアンヌ・シモン＝及川 (MARIANNE
SIMON-OIKAWA)

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号：70447457

(2)研究分担者

中地 義和 (NAKAJI YOSHIKAZU)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50188942

鈴木 雅生 (SUZUKI MASAO)

共立女子大学・文芸学部・専任講師

研究者番号：30431878

平成20年まで

畑 浩一郎 (HATA KOICHIRO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・助教
研究者番号：20514574

平成21年から

(3)連携研究者

月村 辰雄 (TSUKIMURA TATSUO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50143342

塚本 昌則 (TSUKAMOTO MASANORI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：90242081

野崎 歓 (NOZAKI KAN)

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号：60218310

塩川 徹也 (SHIOKAWA TETSUYA)

東京大学・大学院人文社会系研究科・名誉教授

研究者番号：00109050